



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。



ACLSの普及について

12月の警鐘的事例に、救急患者の呼吸管理に関する判断やACLS (Advanced Cardiovascular Life Support) の実践について、検討を要する事例の報告がありました。当該病院では、問題点を明らかにすべく症例検討を行い、ACLSの学習会や当直医の組み合わせの改善などが実行されていますが、あらためて民医連全院所にACLSに則った救急対応の確認・徹底を求めます。

ACLS講座を、全病院で全医師・看護師を対象に

繰り返し研修会などをひらいて、徹底しよう

たとえば、心停止リズムにおけるプライマリーサーベイ (心肺蘇生と早期除細動に重点) の病院内アルゴリズムは以下のようになっています。

Hazards現場は安全か Hallo患者の意識確認 Help人を集める、
救急カート・除細動器

Airway気道確保、下顎挙上

呼吸評価 = 見て、聞いて、感じて、10秒まで

Breathing呼吸がなければBVMで換気2回 (10 ml/kg)、酸素があれば
6 ~ 7 ml/kg

脈拍、循環のサイン確認 ; 息、咳、動き

Circulation心臓マッサージ100回/分、15回的心臓マッサージと2回の
換気

Defibrillationモニター評価、パドルで除細動3回まで

Evaluationモニター心電図を評価

適切なアルゴリズムに沿ってセ
カンダリーサーベイへ

* ACLS : アメリカで蓄積された心肺蘇生法を体系的にまとめたもの。ACLSのアルゴリズム、その習得のためのコース受講など、「日本の救急医療の底上げになるもの」などと紹介 (毎日新聞2003.2.28) がされている。